

寮生活で自立性と協調性を育む

ともに住まい、ともに成長する新しい学生寮 お茶の水女子大学 Students Community Commons(お茶大SCC)



5人で1つのコミュニティを作る「ハウス」構想。学生寮を校舎の一部と捉え、学生主体の運営を支援する大学のサポートもプログラム化されている。

お 茶大SCCは、平成23年に整備された新しい学生寮である。立地は、既存の小石川寮に隣接し、大学まで徒歩5分の好環境となっている。

コンセプトとして、

○個性豊かな学生たちの人間関係の中で社会性を培い、多様な

価値観を認め合う寛容性を養う場所

○異質な他者と自己を知り、他者と折り合い、他者の力を借りながら、各々が自己実現を目指して生活できる場所

○他者と助け合い、お互いを認め合うことで、自立性と協調性を持った人格を育む場所

の3つを掲げ、様々な出会いの中で、助け合い、協調し合い、ともに成長する。生活空間でありながらキャンパスライフに寄り添うもう一つの学舎と位置づけられている。

■5人で1つの小さなコミュニティ（ハウス）

プライバシーを守った個室を確保しつつ、キッチンや浴室は5人のハウスで共有する。

今まで知らなかった者同士が知り合い、助け合い、ともに生活する中で、それぞれが自分探しをして、自己実現を目指すことができる環境となっている。

ベッドルームは、一人一人のプライバシーを確保したスペースと



Amenity Facilities
Bedroom Space
Communicate Living



北側プライベートルーム

南側プライベートルーム

南側プライベートルーム

バスユニット

トイレ

なっている。ベッド、机、エアコンなど快適に暮らせる設備に加え、情報端末もあるので、インターネットの利用も可能である。

寮には管理人を配置し、夜間休日には警備員を配置するのでセキュリティ面も安全安心と言える。

ラウンジは、お茶大SCCの1階にある多目的ルームで、お茶大SCCと小石川寮の寮生が共同で利用できるようになっている。大型デスクを囲んで勉強会をしたり、プロジェクターで映画を見たり、ソファ席でくつろいだり、目的に応じて自由に使用できる。

■学生支援プログラム

お茶大SCCの3つのコンセプトに基づいて、学生を支援する「学生支援プログラム」が用意されている。寮生同士の交流を促すウェルカムパーティや寮祭などのイベント、寮生自身が企画・運営する自主企画、大学が提供する学修プログラムなど、多彩なプログラムを通じて、いろいろな友人と交流することで、かけがえない体験・成長が得られるよう配慮されている。

■大学のサポート体制

初めての一人暮らしには何かと不安がつきものだが、大学にも寮生をサポートする体制が整えられている。大学に常駐する学寮アドバイザーは、寮生と協同して各種イベントを企画したり、困ったときの相談窓口にもなってくれる。また学生支援室、保健管理センターなども連携して、寮生の学修の場を提供したり、心身の問題にも対応してくれる。

■寮生組織

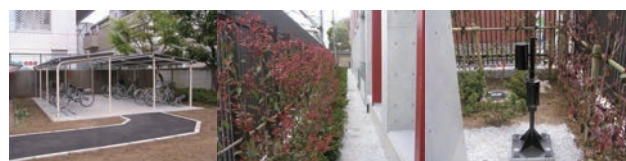
お茶大SCCでは、5人1組で「ハウス」を構成して暮らすが、ハウスごとに1名のハウス長を決め、10のハウスで合計10名のハウス長からなる「寮生協議会」を構成することとなり、それぞれのハウス長が役割を担って、寮の生活を円滑に進められるようなサポート体制を作っている。

■既存施設の改修

お茶大SCC建設に伴い、既存小石川寮（RC造4階1,510㎡）の改修整備も実施された。（外壁吹き付け、建具回り漏水シール打ち替え、手摺り塗装塗り替え、屋上防水全面改修（断熱材入



小石川寮（左）とお茶大SCC（右）



駐輪場

植樹

赤外線センサー

り)) また、以前は屋外に容器を放置し、カラスの被害でゴミが飛散していたため、ゴミ置場を新設し、既存寮と新寮で合わせて共用ゴミ置場としている。更に、既存自転車駐輪場36台を塗装改修、新規に自転車駐輪場36台を整備し、合計72台分の屋根付き駐輪スペースを確保している。

■環境整備・防犯対策

建物周辺には四季折々の植樹を行っている。特に新寮前は歩道からの視線目隠し効果のため、中木であるベニカナメモチを植樹している。敷地内の建物周辺には、赤外線センサーを設置し、夜間の不審者の防犯対策を行っている。また道路に面するフェンス先端に剣先型忍び返しを設置している。



1階ラウンジ

1階ラウンジ

各ハウ斯里ビング・ダイニング

1階身障者トイレ